



緑の地球新聞

第164号

2024年4月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている
私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150

着実に進捗している植林事業

ベトナム・ラオカイ省植林事業の2023年活動報告

当基金が、2020年4月にベトナム政府と覚書を締結した「ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業」は、同年11月に3万本の植林を行い、現在は、補植や除草など森林の育成管理が進められています。

本件事業に関して、ベトナム政府から2023年の活動報告が送付されましたので紹介します。馬尾松の苗木が順調に生育する一方、カントンアブラギリは成長が緩やかで、適応に時間がかかっている様子などが記されています。

1. 植林場所の気温と降雨量

植林地のあるベトナム北部は温帯性（亜熱帯）気候に分類されますが、植林場所は、中国との国境に近いベトナム最北部の山間地帯に位置しており、2023年の平均気温は、例年とほぼ同じ約20℃でした。

最も暑い6月の平均気温は32℃



(写真1) ベトナム最北端に位置する植林地。冬場は気温が0℃まで下がる日があり、年間降雨量は少なく、苗木の成長には厳しい気候条件です。

に達する一方で、最も寒い1〜3月の平均気温は12℃に止まりました。0℃まで下がる日もあり、低温の時は有害な塩霧を伴うことが多く、人と家畜の健康や、林業生産に大きな影響を与えたとのことです。

2023年の年間降雨量は、平年を下回り、約235ミリメートルにとどまりました。



(写真2) 2020年に2万7,000本植林した馬尾松。生育は良好で、樹高平均は1.5m〜3.0m。4mに達した木もあります。

苗木の成長には厳しい気候条件ですが、植樹した馬尾松（別名タイワンアカマツ）及びカントンアブラギリは現地の気候条件に適応した原産種ですので、正常な成長を確保するには充分だったとのことです。

2. 苗木の生育状況

①馬尾松（タイワンアカマツ）の苗木
2020年8〜9月に2万7,000本植栽された馬尾松の苗木は、順調に成長しています。

2024年2月現在、若木の平均樹高は約1.5m〜3.0mで、4mに達している木もあるとのこと。成長は比較的均一です（写真2、3）。

馬尾松は成木になるまでには更に約3年を要し、その頃には樹高が約5〜6mになります。

2023年には、枯れた若木等に対応して1,000本の苗木が補植



(写真3) 馬尾松の若木。担当者と比較して成長の様子が分かります。

されました。また、雑草やブドウの蔓の除去など下刈りが行われませんでした。

② カントンアブラギリの種子

カントンアブラギリは、2020年10～11月に、森林区画の境界線に沿って3,000本分が直播されました。カントンアブラギリは、種子から育てているため成長が遅く、乾燥や雨不足などの厳しい気候条件もあり、適応するのに時間がかかっています。ベトナム側は、2023年にカントンアブラギリの補植を継続しました。しかし、植林地域の土壌は緻密で、石の割合が高いため、成長は緩やかです。

カントンアブラギリの平均樹高は、2024年2月現在、1～1.2mとなっています。(写真4、5)

3. 除草など森林整備状況

2023年には、2回の森林整備



(写真4) 2020年に播種したカントンアブラギリ。樹高平均は約1～1.2mです。

作業が行われました。

3月の最初の作業期間では、植林地を守るための有益な草の播種と農作物の間作とを組み合わせたながら、基礎となるべき盛り土が行われました。

9月の2回目の作業期間には、植栽した低木から、雑草や蔓を取り除く作業が含まれています。植林地は急峻な地形のため、苗木の樹冠を出して生育をよくするための枝払いが行っておりません。

各作業期間には約30～40人が参加し、ナイフやクワを使って手作業で土を盛り、種まきをしました。地元の人々は雑草や蔓を刈り取りながら、同時に苗木の根元を盛り土して、若木に最適な光合成と成長条件を確保しました。

さらに、森林レンジャー部隊や地元住民が時々森を訪れ、森林の木々



(写真5) 岩地に生育するカントンアブラギリ。

が家畜や有害な野生動物により被害を受けていないか確認しました。

4. 植樹と手入れにあたって困難だったこと

ベトナム側からは、植林地が住宅地から離れているため、資材や苗木の運搬、植林の実施やその後の植林地の手入れのための移動が非常に困難だったと報告がありました。

また、植林地が急峻な地形で、多くの蔓や低木の成長が非常に早かったことも、植林の世話をする地元の人々に多くの困難をもたらしたとも報告されました。

加えて、2022年から引き続きく円相場的大幅下落(円安)のため、当基金からの助成金がベトナム通貨ドンに換算して大きく減価し、事業資金の大幅な減少が起りました。

その結果、2023年夏には、ベトナム側から当基金に、事業資金が不足して困っている旨の連絡が入る事態になりました。

本件に関しては、最終的に不足額に相当する50万円を追加で助成することとしました。ベトナム側から、当基金の対応に深く感謝する旨の連絡を受けるなど一件落着きましたが、為替レート下落による問題の発生は、初めての経験でした。

こうした様々な困難はありましたが、これまでの4年間、植林事業は概ね順調に推移してきました。

これは、ベトナム側の官民挙げての真摯な協力と、当基金の会員の皆様、及び貴重なご寄付をお寄せくださった多くの皆様のご協力の賜物であります。本稿をお借りして、皆様に厚く御礼申し上げます。

「地球にやさしいカード」助成団体の2024年度の活動予定

「地球にやさしいカード」からの寄付金を原資とする当基金の助成事業(2024年度は12団体に助成)に関して、各助成団体の2024年度の活動予定を紹介いたします。

この制度は、「地球にやさしいカード」会員によるカードショッピング額の0.5%に相当する金額が、三井住友カード株式会社(2024年4月1日付けでS M B Cファイナン

スサービズ株式会社と合併)から「緑の地球防衛基金」に寄付され、当基金を通じて、国内外で様々な環境保全活動を行っているNPOなど各種団体に助成されるものです。ちなみに2023年度の助成金実績は1,013万余円でした。

(熱帯林を守り育てるカード)
NPO法人熱帯森林保護団体

アマゾンの森は、開発等の影響によって、2023年7月までの1年間に約9,000平方km(鹿児島県の面積に相当)を消失しました。

先住民の若者で組織した「消防団事業」は、火災発生時の迅速な消火活動がブラジル国内でも高い評価を得ています。ブラジル国内のNGOからも支援協力があり、今後は対象地域を拡大し、消防士を増加していく計画が進んでいます。

2023年のルーラ政権の誕生により、環境保護と先住民人権を尊重する政策が理解されたことで、活動がスムーズになると確信しています。

**(尾瀬の自然を守るカード)
NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク**

尾瀬はすべてが特別地域、特別天然記念物であり、次世代に残すべき貴重かつ脆弱な自然資産です。しかし生物多様性などお構いなしと言わんばかりに、大型シヨベルカーが騒音とともに、鳩待峠を闊歩しています。これは外国人観光客誘致のための、大規模な宿泊施設工事です。

2024年度は、侵入外来植物、水質、野鳥などの調査とともにバス添乗解説を予定しています。また保護活動の後継者育成研修「尾瀬インタープリター養成講座」も行います。

**(立山連峰の自然を守るカード)
NPO法人立山自然保護ネットワーク**

富山県民ボランティア・NPO大会などで自然保護に関する啓発を行い、活動の裾野が広がるように努めます。また、室内例会のほか県内各地で自然観察会を実施し、39年目のブナ活力度調査や17年目となる呉羽丘陵でのモニタリングサイト1000里地調査も継続します。

外来植物対策については従来の活動範囲でオオバコやシロツメクサなどを除去するほか、亜高山帯下部でスキの分布状況を調査した上で集中的な除去作業を実施する予定です。

**(白保のサンゴを守るカード)
NPO法人夏花**

石垣島の白保海岸は北半球最大規模のアオサンゴ群集があり、海中公園、西表石垣国立公園に位置します。

2024年度は引き続き、沖縄県特有の環境問題である農地からの赤土流出防止対策としてのグリーンベルト植栽の実施や、ロガーと呼ばれる水温計を設置し、年間の海水温度変化のデータ化を実施します。

環境教育等については、白保のサンゴ礁保全に関わってきた大学等と協働して新しい環境プログラムの開発に取り組み予定です。

**(ヒマラヤの自然を守るカード)
認定NPO法人ヒマラヤ保全協会**

ヒマラヤ保全協会は、ネパールの山岳農村部で植林・果樹栽培の

アグロフォレストリーを通じた環境保全活動を行っています。

2024年度は、ネパール西部ダウラギリ県での植林活動と、農山村での新規果樹栽培(キウイ、レモンなど)を協力農家と継続します。今年で50周年を迎える本会は、ポカラ湖畔の駒ヶ根公園への桜苗の記念植栽による、IHCさくら記念公園の開設を予定しています。さらにチーズ工房の再生支援、女性たちによる紙漉き工房、機織り工房など、換金性の高い自活自営支援で、地域エンパワメントを推し進めます。

**(ウミガメを守るカード)
NPO法人サンクチュアリエヌビーオー**

ウミガメは、絶滅危惧種であり国際保護動物です。アカウミガメは、静岡県では希少野生動物植物保護指定種、浜松市では指定文化財ですが、海岸環境は年々悪化しており、保護は必須です。

さらに、静岡県が計画し浜松市が要望する、海岸脇に建設計画の大型野球場を中心としたスポーツ公園も問題です。球場や周辺施設が夜間開業すれば、その照明が子ガメを陸に誘導し、海に向かえなくなり、繁殖環境を守るため、建設計画の見直しを働き掛けていきます。

**(トンボの保護区を守るカード)
NPO法人桶ヶ谷沼を考える会**

日本一のトンボ生息地「桶ヶ谷沼」の環境を守る、特に絶滅危惧種ベッコウトンボの種の保全に力を注いでいます。長い年月の活動にもかかわらず、2021年度の67頭から、種の保全の危機状態が続いています。このため許可を得て、採卵・ヤゴの生育ゾーンを設定し網掛け・餌やりなどの活動が続きます。毎年反省を含め協議して新たな手法を取り入れるなど、昨年の調査記録237頭から更に記録を戻せるように計画します。

今年度はベッコウトンボの継続した飼育・保全保護活動並びに沼本体からの自然出現を期し、沼の湿地復元計画を新たに実施します。

**(トンボの保護区を守るカード)
上総自然学校**

2024年度も、休耕田を再生して稲作を行いながら、トンボやカエルなどがたくさん住めるよう湿地や、周辺の管理を進めていきます。

カエルの繁殖場作りや山林の整備は、ノスリやサシバ、フクロウなど猛禽類の繁殖場となるとの成果が出てきています。最近の調査ではシャジクモなど、珍しい水草も見つかっています。アライグマによる東京山椒魚食害対策として、暗渠や竹製柵を作ります。イベントの安全対策としてナラ枯れの伐採も行い、山林の管理も拡大中です。モートンイイトンボなどトンボ類も増やしたいです。

（ゾウを守るカード）
認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金

絶滅のおそれが高まるアフリカのマルミミゾウとサバンナゾウ。象牙目的の密猟は大きな脅威です。未だオープンに象牙を販売している日本は、密猟と象牙取引に無関係とは言えません。

そこで、日本の象牙市場に関する報告書を準備し、2025年2月のワシントン条約会議（ジュネーブ）に参加し、関係者に働きかけを行います。また、横浜市の2つの動物園とのコラボで、小学生に対するゾウ保護の教育プログラムを実施し、その成果をパネル展などで来園者にも広く普及します。

（地球温暖化を抑えるカード）
真庭遺産研究会

岡山県北部中国山地の麓に広がる山村地帯は、全国最大のオオサンショウウオの生息地です。昔懐かしい山里の風景や美しい溪流の環境の中にオオサンショウウオが暮らし、繁殖を行っています。しかし、この数十年間に生息地の環境は大きく変化し、繁殖域の縮小や、個体数の減少が進行しています。

2024年度のオオサンショウウオの保護活動として、下和川水系とあわせ、倉見川の渓流域において、生息地となる清流環境の保全と再生

に取り組みます。

（地球温暖化を抑えるカード）
一般社団法人熱帯林行動ネットワーク

熱帯林行動ネットワークでは、2020年以降、インドネシアのボルネオ島東部でオランウータン保護団体であるCOPと連携して、植樹活動を実施してきました。

5年目となる2024年度は、これまで植樹した地域においてモニタリングや管理・修復作業を行うとともに、オランウータン保護活動の一環として、保護林の境界周辺にて野生のオランウータンと住民との衝突を防ぐため、緩衝地域を設けることを目的とした植樹を実施する予定です。

（地球温暖化を抑えるカード）
NPO法人NPOクワガタ探検隊

NPOクワガタ探検隊は、自然とのふれあい原体験を通して『未来の森の守り人』を育成する活動を、30年間持続してきました。

今年度は、①新創作絵本『なんでやねん！昆虫の王様』の小・中学校への寄贈・活用、②箕面国定公園内での「緑の植樹活動」、③海洋流出プラスチックゴミ除去「猪名川クリーン作戦」を企業との共同実施、④地域産カブト虫を増殖して元の里山に帰す「里山飼育」、を行政・住民と協力して行い、北大阪に里山を再生します。

たくさんの使用済み切手など
ありがとうございました

使用済み切手等売上表
(12月16日～3月15日)

未使用テレホンカード	0円
未使用／使用済み切手	371,965円
未使用／書き損じハガキ	0円
外国コイン&紙幣	120円
合計	372,085円

使用済み切手等協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

安西敦子、飯田治美、飯野博己、一柳清美、伊藤伸子、慶田紫都子、岸裕子、清水初己、末松大輔、曾根久子、中泉亜紀、中野寿人、藤田祐子、松尾眞由美、光村文字、安田憲俊、匿名

同法人・団体協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

栄久電気工業(株)、(株)オーゼットユー、鹿島建設(株)、柏市国際交流協会、(株)さくら工業所、三光ライオンズクラブ、三洋テクノマリン(株)、新光電気工業(株)、JSA中核会岐阜支部、(株)杉山チエン製作所東京支店、生長の家岩手県教化部白鳩会、積水ハウス不動産中部(株)、(株)大気社九州支店、大本山永平寺、高千穂ライオンズクラブ、「小さな親切」運動愛媛県本部

「小さな親切」運動北見支部、「小さな親切」運動本部、東芝プラントシステム(株)厚木工場、戸田建設(株)、中津沖代ライオンズクラブ、ニコル・レーシング・ジャパン(同)、西はりま司法書士法人、日本郵便(株)市川大洲郵便局、ハート(株)、(社)浜松市社会福祉協議会北地区センター、ハンドメイドLuxe、不二建設(株)、ブリヂストン労働組合横浜支部、豊後高田ライオンズクラブ、三井住友信託銀行難波支店、三越伊勢丹グループ労働組合、都城金御岳ライオンズクラブ、郵船商事(株)、由布ライオンズクラブ、LIMNOボランティア推進委員会、(株)ロッテ、(株)ロムテック

寄付協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

SMBCFファイナンスサービス(株)、榎本邦彦、大熊泰江、ジャパン・カインドネス協会、(株)乗馬クラブクレイン、染矢武尊、幅田博樹、東くみ子、福助工業(株)、森口修、渡邊公伸

事務局からのお願い

使用済み切手等を送り下さる皆様、いつもありがとうございます。当基金では、皆さまから送っていただいた「未使用／書き損じハガキ」「外国コイン&紙幣」等の引き取りを承ります。送付先は、〒760-0801 香川県高松市栗原町1-1-1 緑の地球新聞事務局 までお願いいたします。